

ヒバクシャ医療国際協力通信

CONTENTS

- チェルノブイリ・カザフスタン関連国医師へヒバクシャ医療研修
- 滑石小学校、滑石中学校、島原第一中学校で出前講座を開催
- 核兵器禁止平和建設国民会議が活動助成金を寄付
- 第8回永井隆平和記念・長崎賞について



▲ 平和祈念式典に参加したチェルノブイリ・カザフスタン関連国からの研修生

受入研修事業

チェルノブイリ・カザフスタン関連国医師へ ヒバクシャ医療研修



ナシムの蒔本会長を表敬

チェルノブイリ原発事故周辺諸国やカザフスタン共和国で放射線被ばく者の治療にあたる医療従事者に対して指導や医療情報提供を行うため、今年度も6名の医師を招き、ヒバクシャ医療研修を行いました。研修者は7月末から1ヶ月余りに亘って長崎に滞在し、長崎大学を中心とした専門研修において、日本の最新医療を学び、ヒバクシャ医療分野で共同研究を行う関係者との交流を深めました。

また、長崎原爆資料館を見学し平和祈念式典へ参列するなど長崎原爆の実相について学び、

日赤長崎原爆病院や放射線影響研究所、長崎市原爆被爆者健康管理センター、患の丘長崎原爆ホームなどへの視察訪問を通して、日本の原爆被爆者への援護やケアについて理解を深めました。



ロシア連邦 オブニンスク放射線医学研究所

アンナ シンカルキナ

Anna Shinkarkina 医師(上級科学研究者) 専門:病理学

NASHIM研修のお陰で、被爆者における健康ケアや研究の多様な問題に取り組んでいる、素晴らしい夏季研修に参加させていただく機会が得られました。そして、長崎大学大学院付属原研の国際放射線保健部門での実験研究にも参加させていただくことができました。

NASHIMと、長崎大学、そして実験室の同僚の助言と配慮にとっても感謝しています。

最も印象深い出来事は、原爆ホームの訪問でした。涙なしで被爆者の体験談を聞くことはできませんでした。日本国民の被爆者への注意深い姿勢は、本当に誇らしいものです。また、私は平和式典の規模と意義深さに深く感銘を受けました。本当に完璧に準備されていました。被爆者と子ども達の合唱、長崎の空を飛ぶ鳩の群れ、みんなの記憶への敬意、すべての人々が恒久平和への願いを込めてこの式典に臨んでいました。

研修以外にも、長崎の楽しい観光名所を訪問し、忘れられない思い出になる日本文化や料理を楽しむ機会を頂きました。今回は2回目の日本訪問になりますが、新しくかつ楽しい盛りだくさんの事を学び、体験しました。同時に、世界中でもっとも親切なおもてなしの国、また、もっとも自分の国民を大事にする国、日本への変わらない思いを持っています。

わが国で放射線被曝により苦しんでいる人々のために、研修中に学んだ知識と技術を生かし最善を尽くしていきたいと思います。



日本赤十字社長崎原爆病院

ウクライナ共和国 ウクライナ医学アカデミー放射線医学研究所

スタニスラスフ チュマック
Stanislav Chumak 医師(上級研究者) 専門:精神医学



研修はNASHIMの招待で、長崎大学の原爆後障害医療研究施設にて行われました。長崎大学の熟練した先生方から多様な分野(放射線生物学、放射線被曝の医学的影響、医学統計、疫学など)の講義を受けました。私は特に講義とご意見をいただいた三根先生、本田先生、須山先生に感謝申し上げます。

大村国立病院の訪問の際には、今村先生に会って、有意義な情報を得ることができました。病院を見学させていただき、何人かの患者さんの診療にも参加させていただきました。また、中根教授からはご自分の自殺学に関する研究結果を見せていただきました。ヒバクシャの心理学的かつ精神的健康ケア分野での最新のレベルの研究についての研修は有用なものでした。

博物館、教会、市内の観光などの文化プログラムも興味深いものでした。平和式典は、研修中の最も感動的なイベントでした。平和祈念式典に参加させていただいたのは私にとって、大変光栄でした。日本の首相、市長、そしてヒバクシャの演説にはとても感銘を受けました。

最後に 蔦本NASHIM会長と山下教授に長崎へ招待していただいたことを深く感謝申し上げます。日本の同僚との知識と経験の交流にも感謝します。特に柴田教授には我々の長崎での研究のために支援を送っていただき本当に有難うございました。



恵の丘長崎原爆ホーム

NASHIMの関係者とすべての日本の同僚の支援と助言に感謝します。



ベラルーシ共和国 ベラルーシ医科大学

エレナ グリゴレンコ
Elena Grigorenko 医師(助教) 専門:内科学(循環器病学)

私はこの研修で新たな専門知識や、人々との交流の中で貴重な経験を得て、過去に起こったさまざまな出来事を別の角度から見たり、また現在起こっていることを新たな視点でみたりすることができました。日本の医療制度や、疫学データ、長崎の原爆被爆者に対する支援について知ることができて大変興味深かったです。私は放射線の医学的・社会的影響について初めて詳しく知り、今日の学術界が行っている最新の調査結果について知ることができました。

長崎大学の付属病院において、循環器科で研修を受けさせてもらったことに非常に感謝しています。自分の専門である循環器系の疾患について見学できたことは、私にとって興味深く有益なことでした。ベラルーシ国立医科大学の学生に授業で教える際に有益な多くの情報をここで得ることができました。私は患者回診や教授の診察に立ち会ったり、手術室や診断のための検査を見学したりすることができました。

有益で内容の濃い研修プログラムや、温かく、気持ち良く迎えてくださったこと、私たちの要望を非常に理解していただいて日本での研修を快適なものにくださったことに対して、私たちの研修を準備してくれた皆さんに大変感謝しています。NASHIMのプロジェクト遂行に携わっている皆さんの時間と心配りは、かけがえのないものです。

私は、いつか、人々が共通の悲しみや問題だけでなく、お互いの喜びと成果によって団結できるような日が来ることを望んでいます。



山下教授によるオリエンテーション

受入研修事業

ベラルーシ共和国 ゴメリ医科大学

オリガ ワシルコフ
Volha Vasilkova 医師(大学院生) 専門:内分泌学

私は現在、国立ゴメリ医科大学公衆衛生学講座の大学院生です。メタボリックシンドロームおよび糖尿病2型、男性更年期障害の研究をしています。

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科で研修を受ける機会に恵まれ、非常に嬉しく思っています。充実した興味深い研修プログラムにより、私はさまざまな新しいことを知ることができました。原爆資料館や原爆病院、原爆ホームの見学ができたことにも感謝しています。

最初の週は、公式行事のほかに疫学や放射線医療、また長崎大学や原爆に関する数々の興味深い講義がありました。

高村昇教授には、1か月にわたるお心遣い、ご援助、ご支援に対して特にお礼を述べたいと思います。さまざまな研修プログラムにより、住民検診に参加したり、長崎大学病院ばかりか、他病院の甲状腺外科や内分泌科を訪れたりすることができました。

1ヶ月間の間に私は指導教官と共に、“Testosterone Is an Independent Determinant of Bone Mineral Density in Men with Type 2 Diabetes Mellitus”という論文を完成させることができました。

長崎での研修という又とない機会を与えてくださったNASHIMのみなさんに、心からお礼を申し上げたいと思います。



カザフスタン共和国 セミパラチンスク医科大学

アルマ ヌルタジナ
Alma Nurtazina 医師(准教授) 専門:循環器病学

私は今年、長崎大学病院で1ヶ月間行われるNASHIM研修の研修生に選ばれました。1週間目はとても忙しく、ナシム会長をはじめ、ナシム構成機関の表敬訪問が主で、残りの3週間は長崎大学病院循環器内科でのオブザーバーシップに参加させていただきました。

大学病院の皆さんはすべての面で、とてもフレンドリーで手厚く、理解しやすいように助けてくださいました。

私は、心臓専門医として医科大学の家庭医学部門で講義をしており、5、6年次の学生には外来診療に関する授業も行っています。このため、私は日本で一次診療医がどのように働いているのかを知ることにより何よりの関心がありました。大津留先生は私の要望が叶うようにご親切にアレンジしてくださいました。そして、研修の最後の2日間、一次診療医の森先生と白髭先生の病院で研修しました。日本で一次診療医や家庭医学に関する一般的状況を説明していただき、森先生に本当に感謝しています。翌日は、白髭先生の患者さんの自宅を訪問しました。先生は自宅訪問の特徴について、患者さんの管理が自宅で行われているのかなど、いくつかのケースを挙げながらお話してくださいました。訪問の際の、白髭先生の患者さんへの励ましと元気づけの言葉は、本当に素晴らしいものでした。

4週間はあっという間に過ぎてしまいました。高度の医学と日本文化を体験し、たくさんの有用な情報を教えていただきました。研修はとても有意義なもので、楽しかったです。わが国の医師が高水準の日本の病院で専門技術を学ぶことができ、また、ヒバクシャの健康管理に関する経験を共有できる機会を与えてくださることは、とてもよいことだと思っています。

カザフスタンへ帰ってからは学んだ知識を生かして使いたいと思います。長崎での滞在は本当に素晴らしかったです。この素晴らしい研修を用意してくださったNASHIMに深甚たる謝意を表します。



放射線影響研究所 赤星先生の講義

カザフスタン共和国 セミパラチンスク医科大学

アヤン ミッサエフ
Ayan Myssayev 医師(助教) 専門: 整形外科



私はセメイ市セミパラチンスク国立医科大学の外傷科および整形外科に助教として奉職しています。この地方には、40年以上にわたり、空中、地上、地下を含む約500回の核実験が行われてきたセミパラチンスク核実験場があります。放射線の被害を受けてきた住民は、特別な医療支援を必要としており、それはNASHIMの事業の目的とも合致しています。

我々の研修プログラムは、自由時間がほとんどないほど充実したものでした。3週目と4週目には、臨床研修が行われました。まず始めに、長崎大学病院の救急部で長谷先生や山下先生のお世話になり、患者救護の一助を担うことができました。また、大村市の長崎医療センターではICUを見学しました。高山先生には救急部やICUの業務について詳細に説明していただきました。ドクターヘリその他の航空救急体制に重点がおかれた内容でした。

学習のほか、文化的プログラムも充実していました。原爆資料館や平和公園、稲佐山の展望台(昼間、夜間)、出島、伊王島と温泉、26聖人記念館、グラバー園、大浦天主堂、ペンギン水族館などを訪れました。

我々は8月9日の平和祈念式典や、15日のお盆の行事にも参加しました。原爆で亡くなった方や被爆者の方たちに対しての日本人の心遣いには感動しました。我々は、恐ろしい日々を生き抜いてきた被爆者の方々の苦しみを感じ取り、被爆者の方々の治療や介護にあたっている人々に対し、尊敬の念を抱きました。

レポートの最後に、NASHIMがこのような国際交流プログラムを作り、運営していることに対してお礼を述べたいと思います。各教授、講師、病院の医師の皆さんのホスピタリティー、理解、忍耐、支援に対しても感謝しています。私は、日本で得た知識が今後の仕事の役に立つであろうことを確信しています。



平和祈念式典に参加



歓迎レセプション



ナシム会長から修了証書を受け取る研修生

出前出張講座

NASHIMでは、ヒバクシャ医療の国際協力や放射線被ばく医療等についての知識などを普及するため、平成の鳴滝塾 ～ナガサキでしか受けられない放射線の授業～ と題して、長崎大学の先生方に小中学校へ出向いていただいて講義を行う出前講座を平成19年度から実施しています。

今年は、①6月22日長崎市立滑石小学校(5年生64名)、②6月30日長崎市立滑石中学校(2年生117名)、③8月9日島原市立島原第一中学校(全学年210名)で出前講座を行いました。



①滑石小学校の講座は「放射線・紫外線とわたしたちの健康」というテーマで、長崎大学先導生命科学研究支援センターの松田尚樹教授が行いました。

松田教授は、「放射線とは音や携帯電話の電波と同じように空気中を伝わるエネルギーで、見えない、聞こえない、臭わない、感じないもの」と説明し、放射線測定器を用い空間中や人体中のカリウムに相当する量の塩化カリウム粉末を計り、教室や身体の中にも自然放射線が存在することを実証しました。放射線を感じるとピーという音をたてながらメーターの動く測定器は、生徒の皆さんにとっては大変めずらしかったようで休憩中は大人気でした。

講座の後半は松田教授から「昔の地球には放射線はなかった?」、「紫外線をあびると涙が出やすくなる?」などの放射線や紫外線に関するクイズが14問出されました。全問正解者が出た場合には、「宿題なし」と担任の先生のありがたい約束があったので、クイズの最中は松田教授の声もかき消されるくらい大変な盛り上がりでした。しかし、クイズの半分を経過する頃からだんだんと難しい問題が出て、最終的には残念ながら全問正解者はいませんでした。

生徒の感想

- ・昔の地球には、たくさんの放射線があったことを初めて知ったし、人間の体の中にも放射線があるということにビックリした。
- ・紫外線は体を通り抜けないけど、放射線は体を通り抜けてしまうことなど紫外線と放射線の違いがわかった。放射線を計る器械もおもしろかった。
- ・同じ年齢なのに、紫外線のあたる量によって、しわやしみのでき方が違うことがわかったので、これからは外に出るときは、日焼け止めをぬったり帽子をかぶろうと思った。
- ・紫外線は悪いことをするだけでなく、ビタミンDをつくるのを助けてくれることがわかった。

②滑石中学校の講座は、「原爆直後の救護活動と調査」というテーマで、長崎大学原爆障害医療研究施設の三根真理子准教授が行いました。

講座は「グビロが丘」など長崎大学医学部内にある被爆遺構の紹介から始まり、原爆直後の悲惨な被害状況の中での調来助先生、永井隆先生、秋月辰一郎先生等による救護活動や、その後の日本とアメリカによる調査について等がスライドを使ってわかりやすく説明されました。途中には、「長崎に落とされた原子爆弾の通称は?」などのクイズが所々に織り交ぜられ、生徒の皆さんと三根准教授とのやり取りが盛んに行われ、非常に活発な授業となりました。

また、最後にはアニメ「アンゼラスの鐘」のダイジェスト版が上映されましたが、アニメーションによりリアルに描かれている焼け爛れた原爆後の惨状の中での秋月医師らによる懸命な救護活動の様子は、生徒の皆さんに強く訴えかけるものがあったようです。



生徒の感想

- ・被爆遺構として、旧長崎医科大学の正門があることは知っていたが、グピロが丘、葉専防空壕跡やゲストハウスがあることも初めて知った。また、滑石近くには救護所がたくさんあったこともわかった。
- ・原爆は落とされた時ばかりではなく、髪が抜けたり斑点がでたり、歯茎から出血したり、あとから症状が出てくるということがとても印象に残った。
- ・今まで被爆者の話は聞いたことがあったが、客観的な事実に基づいた講話は初めてだった。また、平和について考えたりするけど、放射線については考えたことがなかったので、今回の講演はすごくためになった。
- ・アニメ「アンゼラスの鐘」では、7分しか上映されなかったが、戦争の恐ろしさがよくわかったので、自分たち若い世代が平和の大切さを伝えていかなければならないと思った。
- ・原爆でたくさんの人々が火傷やケガをして、それを少ない人数で、しかも自分はけがをしているのに、手当をした医師(調先生、永井先生、秋月先生など)はすごいと思った。



③次は初めて長崎市外に出たの講座で、島原第一中学校に伺いました。講座は、上記②と同じ「原爆直後の救護活動と調査」というテーマで、長崎大学の三根真理子准教授が行いました。

長崎市内の学校ではないため、原爆についての認知度が低いのではないかと心配しましたが、平和学習を行っていることもあり、杞憂に終わりました。

また、この日は長崎に原爆を投下された8月9日でしたので、講座終了後の11時2分に参加者全員で黙祷を行い、原爆で亡くなられた方々のご冥福を祈りました。

生徒の感想

- ・原爆は、爆風、熱線、放射線などの被害があることがわかり、64年たった現在までも苦しんでいる人がいることもわかった。
- ・原爆の恐ろしさと平和の大切さ、命の尊さが改めてわかったので、2度と戦争をおこさないでほしい。
- ・今日8月9日、多くの命を失った犠牲者に祈りを捧げるような、世界にとって大切な日になってほしい。
- ・自分たちが次へと伝えるために原爆の被害があったことに向き合っ、事実を知らなければいけないと思った。
- ・爆心地に近い人たちは、一瞬で黒こげになったり、内臓が飛び出していたそうだが、この死体を片づける人たちは大変だと思った。
- ・原爆では日本人だけでなく、外国の人も被爆したことを知った。また、日本は被害者というだけでなく、加害者としての側面があることを学んだ。
- ・ナイチンゲール賞を受賞した人(久松シソノさん)が長崎にいたとは、素晴らしい!

松田先生、三根先生は、講話の中にクイズやおもしろい話を混ぜ、また話し方も小中学生にわかりやすいように工夫して下さい、生徒達からも非常に好評を得て、たくさん感謝の言葉を頂きました。ありがとうございました。

この講座を通して若い世代の皆さんに長崎特有のヒバクシャ医療や国際協力に関心を持っていただき、将来世界のヒバクシャ医療へ貢献するような人材が1人でも多く育ってくれることを期待します。

核兵器禁止平和建設国民会議が 活動助成金を寄付



今年も核兵器禁止平和建設国民会議(核禁会議)に寄せられた浄財を活動助成金としてNASHIMに寄付していただきました。核禁会議は1961年に結成され、核兵器廃絶、被爆者援護、平和建設のための積極的な活動を行っている団体ですが、活動の一環である被爆者援護運動として長年にわたりカンパ活動を実施し、多くの医療施設等へ検診車、車椅子、ベッド、医療機器等を贈呈しています。NASHIM

へも毎年活動助成金を寄付していただいております。いただいた助成金は医学教科書の出版等に役立っています。

贈呈式は8月7日に長崎県立総合体育館で執り行われ、NASHIMからは藤田事務局長が出席して、社会福祉法人恵の丘原爆ホーム等の9団体と共に贈呈を受けました。

核禁会議のこれまでの被爆者救援活動や核兵器廃絶の取り組みに深く敬意を表しますとともに、改めて厚く感謝申し上げます。NASHIMとしましては世界のヒバクシャ支援のため、この活動助成金を有効に活用したいと考えております。

第8回永井隆平和記念・長崎賞について



NASHIMでは、長崎原子爆弾被爆50周年にあたる平成7年に、原子爆弾により重傷を負いながら被爆者の救護に挺身した永井隆博士の功績を称え、「永井隆平和記念・長崎賞」を創設しています。

この賞は永井博士の崇高な平和希求の精神を引き継ぐ国際社会におけるヒバクシャ医療への貢献者を隔年で顕彰するものですが、今年度は第8回目になります。

5月から8月まで候補者の募集をしたところ、日本をはじめ、ドイツ、カザフスタンなど世界各地から6件の応募がありました。6件の候補者と前回次点の候補者の中から本賞受賞者が決定することになります。受賞者が決定次第ホームページでお知らせします。